MOS FOOD SERVICES, INC.

2026年度（2027年3月期）
第2四半期（中間期）決算説明会

2026年11月13日

株式会社モスフードサービス
（証券コード：8153）

内容

1. 2026年度 第2四半期（中間期） 決算の概要

2. 事業トピックス
   ・トピックス①：BYO事業（M&Aの概要と成長シナジー）
   ・トピックス②：国内モスバーガー事業（高収益モデル店舗の開発）
   ・トピックス③：MD事業（冷凍食品市場参入による成長シナリオ）

3. 2026年度 業績予想および配当予想

4. 参考資料

開示セグメントの変更

2026年7月の株式会社ビー・ワイ・オー（BYO社）連結化に伴い、開示セグメントを4区分から5区分へ変更

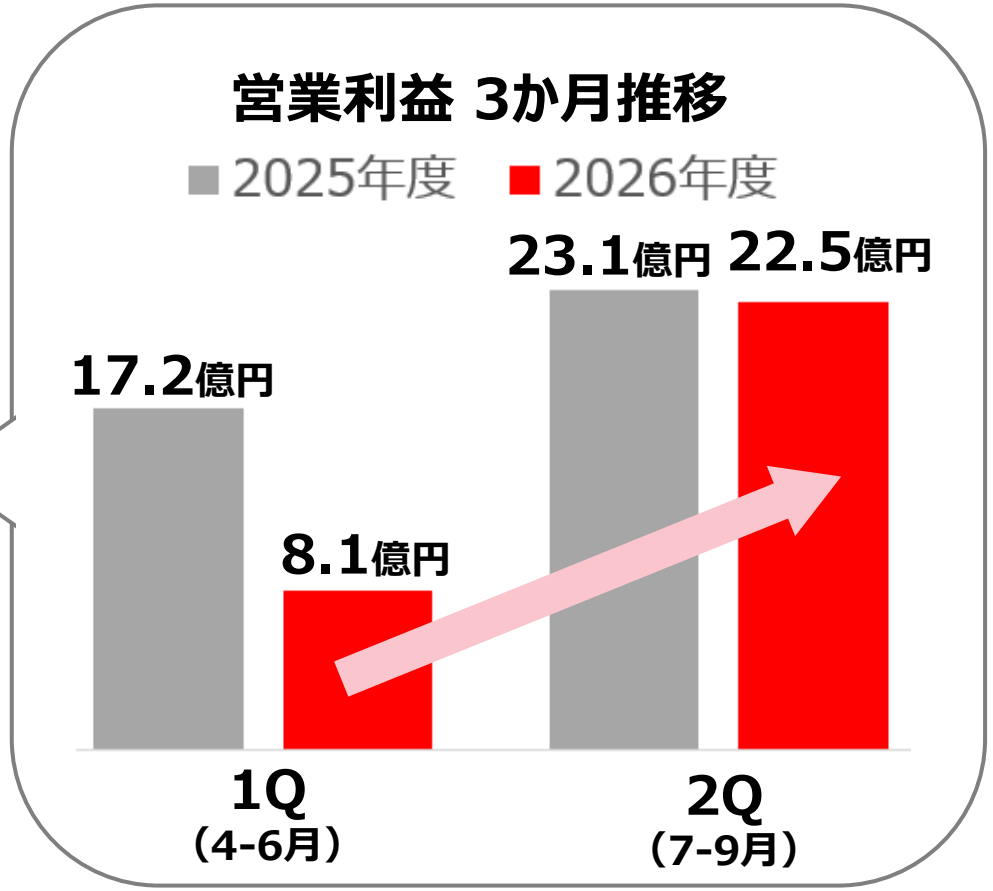
～2026年6月30日	2026年7月1日～
国内モスバーガー事業	国内モスバーガー事業
海外事業	海外事業
グロース事業	グロース事業
その他の事業	BYO事業
	その他の事業

※2026年度 第2四半期（中間期） 決算開示より適用

業績ハイライト① 第2四半期（中間期） 連結業績

1Q（4-6月）の営業利益は、原材料価格の高騰の影響を受けたものの、
2Q（7-9月）は価格改定による原価率改善と増収効果により、前年同期並みへ回復

連結業績（中間期）		
項目	実績	前年同期比
売上高	586億円	115.6%
営業利益	30億円	75.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	18億円	64.5%
EBITDA※	55億円	92.5%



※ 営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

業績ハイライト② 国内モスバーガー事業の実績

商品施策や露出効果により既存店売上高・客数・客単価ともに前年を上回った

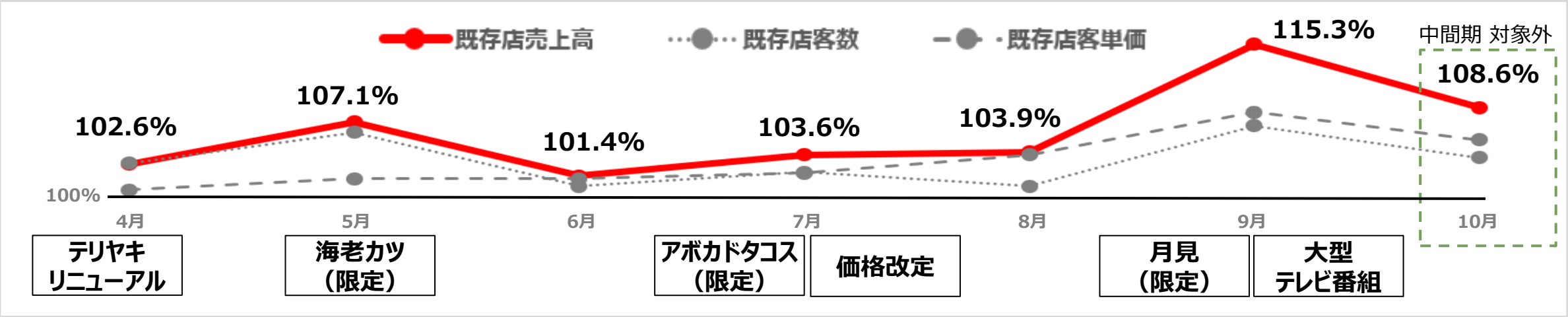
国内モスバーガー事業　※2026年度 第2四半期（中間期）　実績	
全店売上高※	768億円（前年比105.2%）
既存店売上高 前年比	105.7%（客数102.9%、客単価102.7%）
店舗数	1,306店舗（出店9店舗、退店15店舗）

※全店売上高は直営店とFC店の売上合計であり、連結売上高とは異なります。

主な施策・要因

- ■定番商品リニューアルが奏功（4月~）
- ■季節限定商品のヒット（5月、7月、9月）
- ■価格改定（7月~）
- ■メディア露出による集客増（9月~）

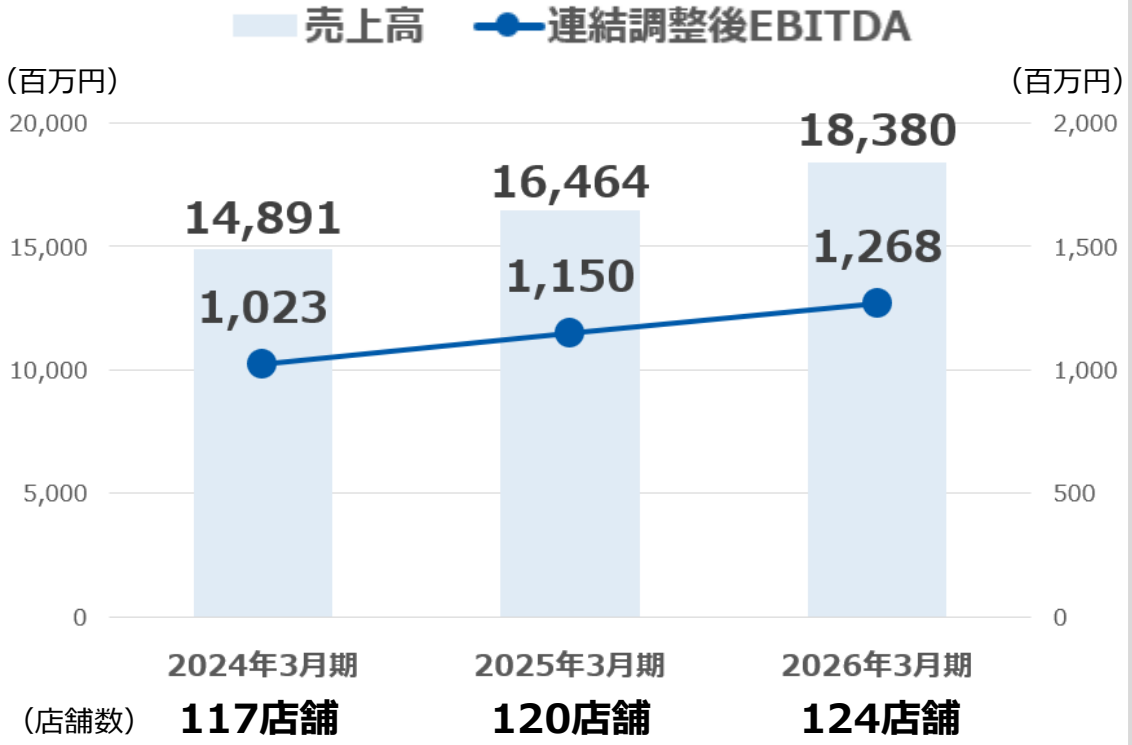
- ■価格のグラデーション化戦略推進（継続）
- ■時間帯別売上の平準化推進（継続）



業績ハイライト③ BYO事業の連結影響

BYO社はコロナ禍以降回復基調で推移。2026年7月より連結化し、
当第2四半期（中間期）において売上高50億円、営業利益0.2億円を計上

過去業績推移



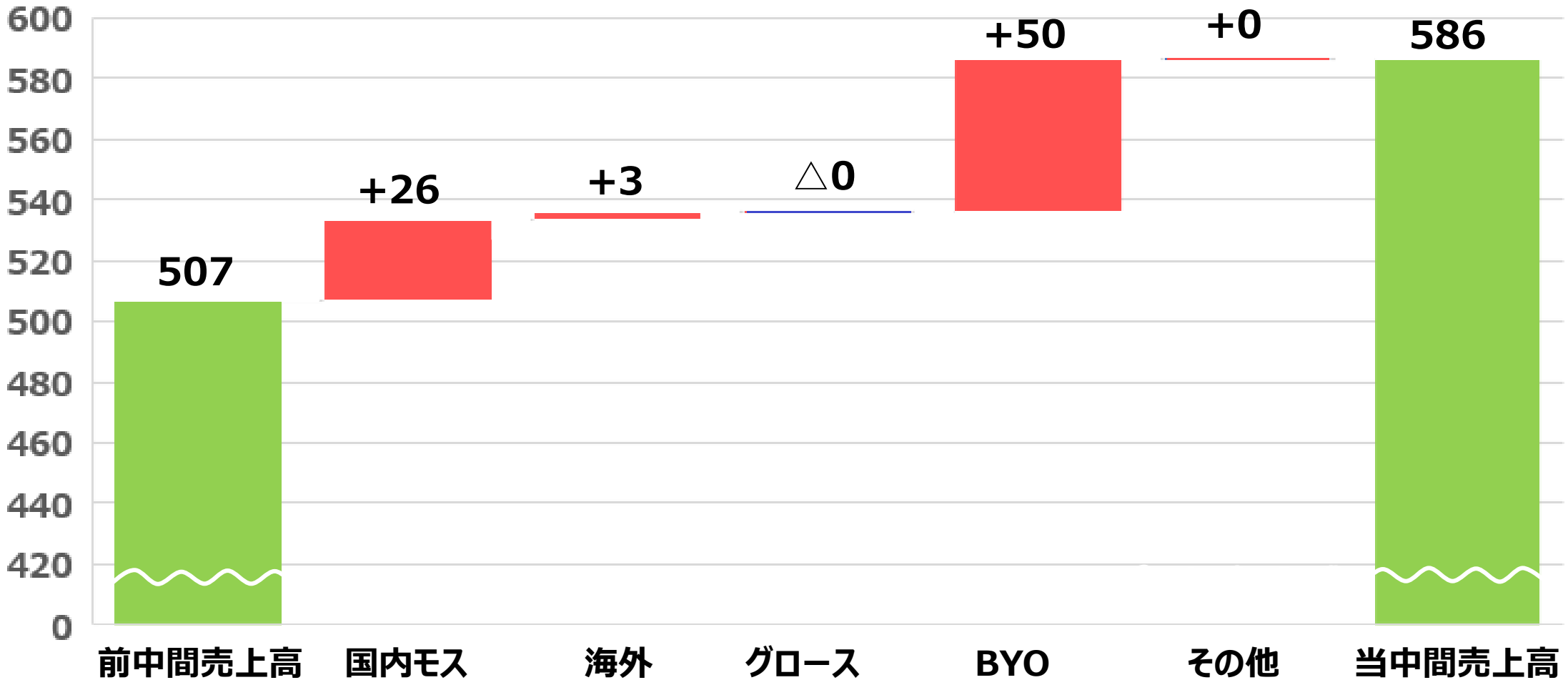
今期連結影響

■取引規模・連結PLインパクト
・株式取得価額：**111.9億円**
・第2四半期（中間期）計上額 ※7-9月・3か月間分
　売上高　：　**50億円**
　営業利益　：　**0.2億円**
　EBITDA　：　**2.6億円**

■のれん計上額と年間償却費 ※暫定値
・のれん計上額　：　**121億円**
・年間償却費　：　**6億円** ※今期計上額は**4億円**
　（償却期間　：　**20年**）

売上高の増減要因

(単位：億円)
(赤は増加要因、青は減少要因)

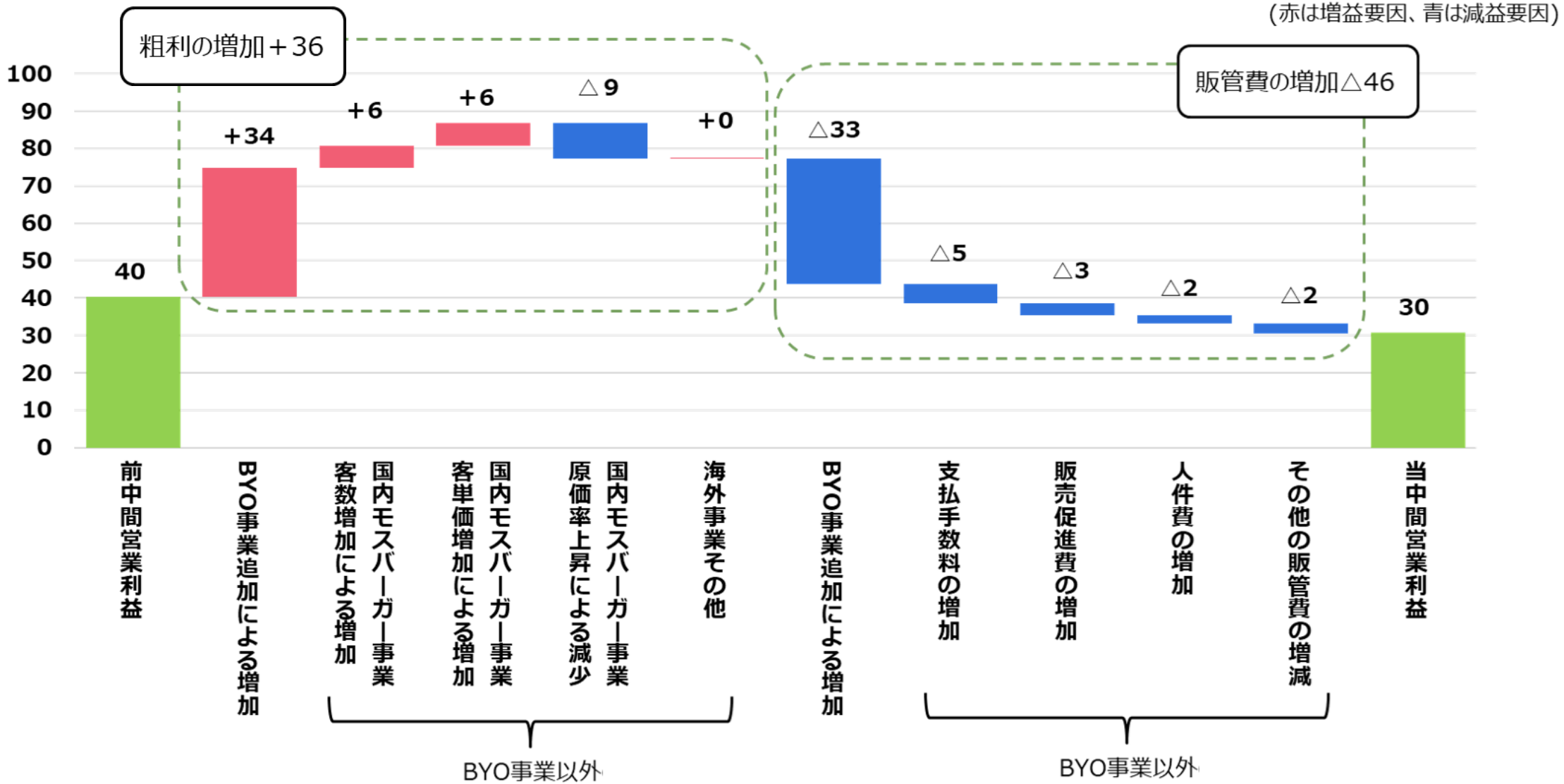


2026年度 第2四半期（中間期）実績

営業利益の増減要因

(単位：億円)

(赤は増益要因、青は減益要因)



内容

1. 2026年度 第2四半期（中間期） 決算の概要

2. 事業トピックス
・トピックス①：BYO事業（M&Aの概要と成長シナジー）
・トピックス②：国内モスバーガー事業（高収益モデル店舗の開発）
・トピックス③：MD事業（冷凍食品市場参入による成長シナリオ）

3. 2026年度 業績予想および配当予想

4. 参考資料

BYO事業

M&Aの概要と成長シナジー

株式会社ビー・ワイ・オー（BYO社）の株式を取得し、2026年7月よりグループ化
両社の強みを掛け合わせ、「新規出店およびFC展開」「海外展開」「コスト抑制」のシナジーを創出

BYO社について

■**主力ブランド**
「和食・酒 えん」
「おぼんdeごはん」
「だし茶漬け＋肉うどん えん」

■**店舗数**（2026年9月末時点）
133店舗（国内**128**、海外**5**）

■**特徴**
・定食として定評のある**和食ブランド力**
・商業施設等における**高い出店・運営力**

成長シナジー

国内店舗網
FCノウハウ
海外インフラ

×

本格和食
日常食
業態開発力

成長シナジー

- **新規出店およびFC展開の加速**
- **海外展開機会の拡大**
- **コスト抑制**

BYO事業

成長シナジー：BYO国内FC展開とグループネットワーク構築

FC加盟店への新たな投資機会の創出
約1,300店舗を成長拠点としてモスグループネットワークの構築

FC展開に向けた直営モデル検証

■ **FC展開ノウハウの確立と標準化**
- 現場オペレーションおよび収益構造の検証・蓄積
- 加盟店向けFC標準マニュアルの策定

■ **モスフードによる直営運営**
- 2027年度に実店舗で検証





投資機会創出



約1,300店舗を成長拠点へ



※画像はイメージです

BYO事業

成長シナジー：海外ネットワークを活用した和食の展開

モスの海外ネットワークとBYOの和食を掛け合わせ、海外展開の機会を拡大していく

2026年度から以下検討開始
海外ネットワークの活用
生産・供給体制の構築

■モスの海外ネットワーク×BYOの和食の融合により、
従来の「ハンバーガー単体」の展開だけでなく、「日本の食」
を世界へ届ける事業モデルへ進化

■BYO社にて従前より計画されていた2027年度以降の
台湾3店舗の出店を皮切りに、今後は、シンガポール、
香港での展開も視野に検討

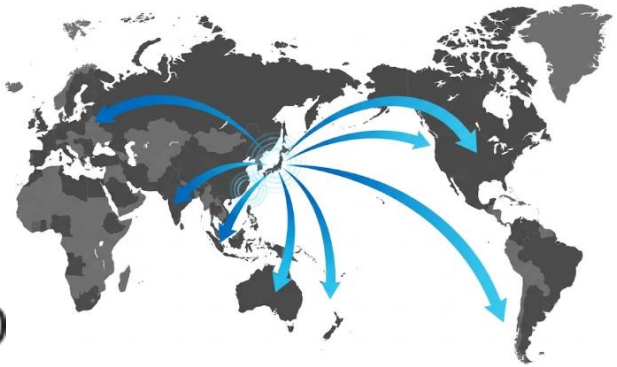
■台湾新工場からの食材供給についても検討



次期中計（2028-2030年度）より
シナジーの最大化
を目指す

■日本発ブランドとして、アジアからグローバルへと広がる
新たな成長ドライバーとしての確立を目指す

BYO.CO.,LTD



内容

1. 2026年度 第2四半期（中間期） 決算の概要

2. 事業トピックス
・トピックス①：BYO事業（M&Aの概要と成長シナジー）
・トピックス②：国内モスバーガー事業（高収益モデル店舗の開発）
・トピックス③：MD事業（冷凍食品市場参入による成長シナリオ）

3. 2026年度 業績予想および配当予想

4. 参考資料

国内モスバーガー事業

高収益化に向けた実験店舗の展開

既存店の基盤強化による店舗数の維持と、次期中計（2028-2030年度）での店舗純増に向けた布石
異なる立地特性に応じた実験店舗による高収益モデルの検証推進

繁華街（東京駅八重洲地下街）への出店









モスバーガーヤエチカ店（8月19日オープン）

■厨房の新機種導入により、
提供時間は平均より**約2分短縮**、
坪売上は平均の**約2倍**に拡大

■セルフオーダー率は**約8割**に達し、人時生産性向上に寄与

ドライブスルー併設大型店









モスバーガー八潮店（9月3日オープン）

■ドライブスルーに前後2台同時注文が可能なタンデムレーンを導入し、最大受注件数が平均の**約2倍**となったほか、
厨房の新機種導入や動線の刷新により
提供時間は平均より**約2分短縮**、
時間帯別の最大可能売上も**約3倍**に拡大

国内モスバーガー事業

高収益モデルを軸とした今後の店舗戦略

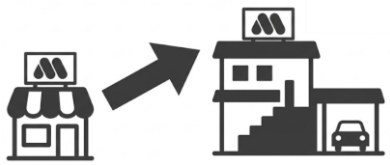
標準面積の拡大と坪売上の向上により、1店舗あたりの売上基盤を強化し、
新立地開拓と高収益パッケージを確立して、次期中計以降の店舗純増へ繋げる

＜収益構造改革の2大施策＞

1店舗あたりの売上基盤強化

■標準的な店舗サイズの引き上げ

■坪売上の向上



高収益モデルによる新たな立地の開拓

■従来見込んでいた約200店の出店候補エリアに加え、
高収益モデルの確立により新たな立地への参入可能性が拡大

■高収益パッケージによる既存店のスクラップ＆ビルド

＜目指す姿＞

成長軌道への回帰

■加盟店オーナーが積極的に
新店出店できる高収益
パッケージを提示し、
2028年度以降の純増を
目指す

■持続的なチェーン売上成長

内容

1. 2026年度 第2四半期（中間期） 決算の概要

2. 事業トピックス
・トピックス①：BYO事業（M&Aの概要と成長シナジー）
・トピックス②：国内モスバーガー事業（高収益モデル店舗の開発）
・トピックス③：MD事業（冷凍食品市場参入による成長シナリオ）

3. 2026年度 業績予想および配当予想

4. 参考資料

MD事業の目的

既存顧客と“モスに行ったことのない”潜在顧客に向け、MD事業を通して新たな収益源の確保とMOSブランドの認知向上、更には来店動機の創出を図る

＜２つのチャネルで展開＞

1. EC事業

自社（本店）



他社モール





2. リテール事業

コラボレーション



卸売



MD事業

冷凍食品新ブランド「MOS Deli」の展開

急成長を続ける冷凍食品市場に、新ブランド「MOS Deli」を投入し、販路の開拓、商品ラインアップの拡充を通じて、新規顧客接点を創出

取り扱い店舗は
当初計画の
3倍まで拡大

新ブランド
「MOS Deli（モスデリ）」
始動

MOS Deli
食卓にモスのこだわりを

新商品第1弾
「焼きおにバーガー」
（2026年9月1日～）

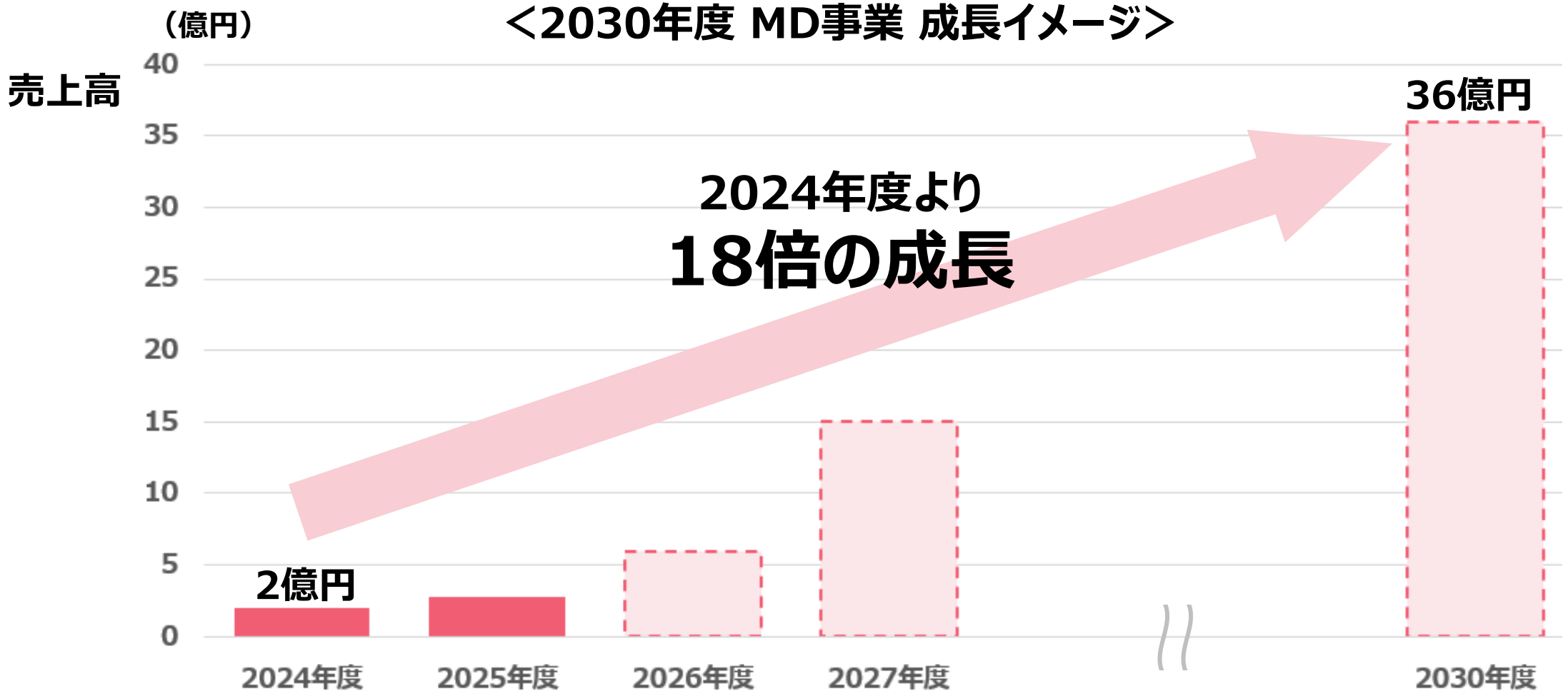


新商品第2弾
（2027年春）

MOS Deli
Coming Soon

MD事業の成長シナリオ

拡大を続ける家庭用冷凍食品市場へ新規参入し、リテール事業およびEC事業の急拡大を通じて、2030年度に売上高36億円を目指す



内容

1. 2026年度 第2四半期（中間期） 決算の概要

2. 事業トピックス
・トピックス①：BYO事業（M&Aの概要と成長シナジー）
・トピックス②：国内モスバーガー事業（高収益モデル店舗の開発）
・トピックス③：MD事業（冷凍食品市場参入による成長シナリオ）

3. 2026年度 業績予想および配当予想

4. 参考資料

2026年度 業績予想および配当予想

BYO社の連結影響を反映し通期計画を修正
国内モスバーガー事業他は、現時点で期初想定通りの進捗

	2025年度実績	2026年度予想（修正）	2026年度予想（期初）
売上高	1,027億円	1,250億円	1,100億円
営業利益	65億円	58億円	57.5億円
EBITDA	106億円	110億円	ー
親会社株主に帰属する当期純利益	45億円	35億円	36億円
のれん償却前EPS	148.7円	128.3円	116.7円
営業利益率	6.4%	4.6%	5.2%
ROE	8.1%	5.8%	6.0%
1株当たり中間配当金	15円	17円	17円
1株当たり期末配当金	19円	17円	17円
1株当たり年間配当金	34円	34円	34円

内容

1. 2026年度 第2四半期（中間期） 決算の概要

2. 事業トピックス
・トピックス①：BYO事業（M&Aの概要と成長シナジー）
・トピックス②：国内モスバーガー事業（高収益モデル店舗の開発）
・トピックス③：MD事業（冷凍食品市場参入による成長シナリオ）

3. 2026年度 業績予想および配当予想

4. 参考資料

中間連結損益計算書

(単位：億円、前期比は%)

	前中間	当中間	増減	増減率	主な増減要因
売上高	507	586	79	+15.6	国内モス+26　海外+3　グロース△0　BYO+50　その他+0
売上原価	265	307	42	+16.0	原価率+0.1%
売上総利益	242	279	36	+15.2	
販売費及び一般管理費	201	248	46	+23.1	販管費率+2.5% 人件費+18(BYO+16) 支払手数料+7(BYO+2、コーヒーマシン入替+2、M&A費用+1) 家賃地代+5(BYO+6) 有形・無形固定資産償却+4(のれん償却+1) 販促費+3
営業利益	40	30	△9	△24.1	
営業外収益	4	5	0	+18.0	
営業外費用	2	3	1	+60.1	
経常利益	42	32	△10	△24.1	
特別利益	0	0	△0	△11.9	
特別損失	2	3	0	+21.7	
税金等調整前中間純利益	40	29	△11	△27.0	
税金費用	12	11	△1	△8.0	
非支配株主に帰属する中間純利益	0	0	0	+69.6	
親会社株主に帰属する中間純利益	28	18	△10	△35.5	

営業利益の増減要因の詳細は
P10をご参照ください。

セグメント情報

(単位：億円)

	報告セグメント	前中間	当中間	増減	主な増減要因
外部顧客への売上高	国内モスバーガー事業	419	445	26	客数･客単価ともに増加(前年比102.4%･102.8%)
	海外事業	76	80	3	シンガポール･魔術は増収、香港は減収
	グロース事業	10	9	△0	
	BYO事業	-	50	50	当2Qより連結(7-9月の3か月分)
	その他の事業	0	0	0	
	計	507	586	79	
セグメント利益(△損失)	国内モスバーガー事業	47	43	△3	原価率上昇 価格改定効果は7月後半以降
	海外事業	2	0	△1	シンガポールは増益、香港･魔術は減益
	グロース事業	△0	△1	△0	
	BYO事業	-	0	0	当2Qより連結(7-9月の3か月分)
	その他の事業	0	1	0	
	計	49	44	△5	
	調整額	△9	△13	△4	
	営業利益	40	30	△9	

中間連結貸借対照表

(単位：億円)

	前期末	当中間期末	増減	主な増減要因
流動資産	473	392	△80	現金及び預金△123(BYO取得価額△111) 売上債権＋24(BYO＋11) 棚卸資産＋7 未収入金＋14
固定資産	400	581	180	有形固定資産＋45(BYO＋22、魔術新工場＋18) 無形固定資産＋123(のれん＋120) その他の投資＋11(BYO＋18)
資産合計	873	974	100	
流動負債	207	250	42	短期借入金＋16(BYO＋9) 仕入債務＋12(BYO＋5) その他＋5
固定負債	69	119	49	長期借入金＋22(BYO＋33) リース債務＋13(魔術新工場＋13) 資産除去債務＋12(BYO＋11)
負債合計	277	369	92	
純資産合計	596	604	8	利益剰余金＋12 自己株式△4(自己株式取得枠の行使→8月に取得完了)
負債純資産合計	873	974	100	

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	前中間	当中間	当中間の主な内訳
営業活動によるキャッシュ・フロー	40	21	税金等調整前中間純利益29 減価償却費23 法人税等の支払額△9 売上債権の増加額△13 未収入金の増減額△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13	△121	連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出△95 有形固定資産の取得による支出△27 無形固定資産の取得による支出△11 投資有価証券の売却及び償還による収入11
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11	△24	リース債務の返済による支出△9 長期借入金の返済による支出△6 配当金の支払額△5 自己株式の取得による支出△4
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	0	
現金及び現金同等物の増減額	14	△123	
現金及び現金同等物の期首残高	252	276	
現金及び現金同等物の中間期末残高	267	153	



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、本件記述とは異なる可能性があることにご留意ください。また、本資料は情報提供のためのものであり、具体的な行動を勧誘するものではございません。